

防災×ジブン×輪島

～令和6年能登半島地震の教訓からジブンが準備できること～

輪島市民に聞きました

災害の教訓① 発災後に困ったこと、大変だったこと

通信障害・情報の不足

●発災直後は携帯電話の通信が断絶

- ・停電がなくても電話がつながらず**使えるのはラジオのみ**



体験談 Pick Up!

泥棒が出た、知らない人がいたなど、不安感を煽るような、真偽の分からない情報が耳に入った

携帯電波がなく、家族の安否が確認できなかった。

物資の不足

●生活の基本となる食べ物や水、毛布などが不足

- ・食料や毛布の**備蓄が不十分**だった
- ・コンビニやスーパーが閉まり食料調達が難しかった

●いざというときに備蓄物資がすぐ活用できないケースも

- ・**倉庫が倒れて**中の物を運び出すのに苦労した
- ・防災バックが見えないところにあり**持ち出せなかった**

体験談 Pick Up!

洗濯ができないため、子供がいると服が汚れやすく、着替えが足りなくなる。

飲料水を備蓄していなかったため、発災後しばらくはまともに飲食できませんでした。

ライフラインの被害

●電気・水道・トイレなどライフラインが長期間停止

- ・スマホ充電やテレビ使用ができず**情報が得られない**
- ・水が入手できても**下水が使えるか**分からず流せない



避難所の環境

●感染症のリスク

- ・インフルエンザやコロナの**感染拡大防止**に苦労した

●ライフラインの停止も影響

- ・断水後のトイレの使い方やゴミの処理等が**管理できておらず**、衛生環境が悪化した



交通インフラなどの被害

●道路が隆起や陥没、建物の倒壊や倒木などで寸断

- ・発災直後は**どの道路が通行可能か**という情報もなかった



体験談 Pick Up!

ガソリンスタンドが利用できない状態。冬であったため暖房器具の灯油やガソリンなどが長期間手に入らず大変だった。

体験談 Pick Up!

帰省と重なり想定より多くの避難者が居たため収容キャパを超えていた。同じく物資も不足。

輪島市民に聞きました

災害の教訓② もし地震前日に戻れるなら、何を備える？

物資の備え

非常食、備蓄を備えておくだけでなく、**実際に使ってみる。特にトイレ!!**

水、燃料、毛布、電気、食料は**2日分程**は必要なかと思います。

食料や水、**ペット用品**をたくさん買っておく。車の**ガソリン**を満タンにしておく。

断水への備え（水、食料の確保、**簡易トイレ**や**ポディシート**の備え）

家具の固定・連絡体制

固定できるものは、**すべて固定**する。使わないものは片づける。食器は半分以上割れた。

電波が無くSNSでしか連絡がとれなかったため、日ごろから**連絡先の管理**をする。

災害の教訓③ 備えていてよかったこと、役に立ったこと

大事なのは平時からの備え！非常用物資などの準備

非常食やレトルト食品など（タンクなども便利）

備蓄水

ポリ袋・ビニール袋

防災リュック

携帯ラジオ

カセットコンロ

発電機・蓄電池

モバイルバッテリー

懐中電灯・ランタン

ブランケット・カイロなど

おむつ・生理用品など

ブルーシート

以前から空のポリタンクをたくさん持っていたので、給水してもらったとき入れ物の準備が楽だった。

ブルーシートも家にたくさんあったので、家屋の損壊した部分の応急修理をするときなど、いろいろ役に立った。

備えるのは物だけじゃない！大切な事前の行動

point! 自宅の安全対策

自宅の耐震化

災害保険への加入

帰れる家があるのは精神的に助かった。

地震保険に入っていた。

家具の安全対策

耐震マットを敷いていた家財は無事だった。（そうでないものは全滅）

point! 地域のコミュニティづくり

特別に備えていたものではなく苦労したが、震災の備品も大切ですが、どうしても長期戦になるので地域コミュニティ、家族皆で助けあえる関係性が大事です。

point! 避難経路や災害リスクの確認

一度高所への経路を小学生の子供と確認しておいたため子供だけ真っ先に高所へ避難する事が出来た。

ハザードマップを確認していたため、住んでいるところの危険度が把握出来ており、震災直後も過剰に混乱することはなかった。

point! 緊急連絡先の整理

家族や親戚などの電話番号やLINEを把握していたお陰で家族・親戚などの安否を確認することができた。これは当たり前と思われるかもしれないが、私の周りの人には家族の連絡先が分からず安否がわからないということが実際にあったため、とても大切なことだと感じた。

point! ガソリンの満タン給油

年末年始にガソリンスタンドが閉まる前に、車の燃料を満タンにしていたので、寒くても暖房を付けて車中泊ができた。

この資料は、輪島市民の方々に御協力いただいたアンケートを基に吹田市が作成しました。

吹田市危機管理室 Tel:06-6384-1753